

飯塚市議会

市民フォーラム

市政報告



飯塚市議会議員

佐藤 清和

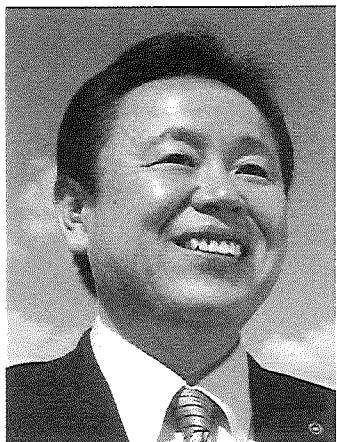
発行/佐藤清和

〒820-0081 飯塚市枝国386-2

TEL: 0948-29-3611

FAX: 0948-29-3611

残暑もようやく和らぎましたが、いかがお過ごですか。



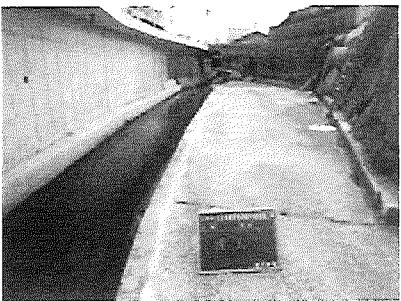
7月の西日本豪雨で被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し、死者数が200人を超える甚大な災害となりました。本市においても幸袋、穎田地区を中心に床上浸水が344棟、床下浸水が298棟、道路の方面崩壊が40箇所以上などの災害に見舞われました。改めて自然の怖さを痛感しましたし、7.19災害を経験したものとして、まだまだ浸水対策に取り組まなければと思いました。現在まで合併特例債を活用して約64億円の費用をかけ浸水対策を行って来ましたが、まだ万全ではありません。引き続き今後は災害が起りそうな地区を中心に浸水対策を取り組んで行きます。

平成30年度第2回市議会定例会

6月15日から29日までの日程で平成30年度 第2回市議会定例会が開催され、補正予算1件、条例議案3件、人事議案1件、専決処分の承認議案5件、その他の議案2件、報告13件をそれぞれ審議しました。補正予算では歳入歳出の総額に歳入歳出それぞれ約7億円を追加し、歳入歳出予算の総額を615億円にするものです。補正の主な内容は、待機児童対策として幸袋子ども園、横田保育園の定員をそれぞれ20名、つぼみ保育園の定員を10名拡大する事業費の増、早急に改良が必要な工事費や浸水対策において用地取得の目処がついたものが主な内容です。審議した結果それぞれ可決しました。

明星寺川 浸水対策

以前から懸案でありました、バス離合場所の撤去が完了しました。枝国3区の県道がバスの離合場所として利用していましたが、新設された道路をバスが通行するために使われなくなっていて、離合場所の直径約1メートル橋脚8本が河川の流れを阻害して大雨の時



には渦を巻いて大変危険な状態でした。数年前から県土木事務所に要望して今回の河川改修が実現しました。これにより流れを阻害するものがなくなり、大雨時にもスムーズに流れ越水しないようになります。

筑豊ハイツ再整備計画見直し案

筑豊ハイツの現状や取り巻く環境を考慮し、

- ・車いすテニス大会運営の支援機能を含めた「嘉飯桂園域テニスのまちづくり計画」に資する施設
- ・障がい者にやさしいバリアフリーに配慮した施設
- ・景観や環境保全に配慮した施設
- ・多くの人が集うコミュニティ機能を有する施設
- ・隣接する県営筑豊緑地利用者が利用しやすく、スポーツ合宿にも適応した施設

を基本理念とし、公募による民間事業者提案により、現施設解体から宿泊施設等の建設まで一体的な整備をするとし、資金調達は市が行い、民間事業者が、施設整備を行った後、維持管理・運営業務を行うDBO(design:設計 build:建設 operate:運営)方式の提案がありました。以前は民間が建設から運営までを行う計画で募集したところ公募する民間業者がいなかったことで方向転換が図られました。その後、今議会に追加議案として筑豊ハイツ再整備事業費として約6億2000万円の補正予算が提案され審議した後に可決しました。



八木山バイパス渋滞緩和の調査費計上

八木山バイパス渋滞緩和に対する要望は北九州国道事務所や国土交通省、同省九州地方整備局に陳情、要請行動を行ってきました。2014年10月の無料化以降、事故や故障車以外でも朝夕に限らず、自然渋滞が慢性化していますが、現状では国による事業着手は、ほぼゼロに近いのが現実です。その現状を打破し、自体を動かすためには国が事業着手し易い理由付けが必要です。その理由付けが地元の事業費負担(再有料化)です。今回はその実現可能性を調査する予算が計上されたと国土交通省から内示がありました。再度有料化にあたっては従来の半額以下で、ETC利用による朝夕の通勤割引など、出来る限りの負担軽減に努めて行きます。

第37回飯塚新人音楽コンクール

37回飯塚新人音楽コンクールの本選が6月3日、イイヅカコスモスコモンで開催され出席をしてきました。ピアノ部門、声楽部門それぞれで順位が発表され1位に選ばれた方々には海外研修費として100万円が贈られました。この度、本市が音楽大学の候補地として選ばれたのも、このコンクールが長年にわたり市に頼らず独自で運営されていたことも、大きな要因になっています。運営関係者の方々に心から敬意を評します。



東京パラリンピック 南アフリカのキャンプ地に！

2020年東京パラリンピックに関連して飯塚市が南アメリカのキャンプ地に決定し、7月5日に基本合意書が締結されました。

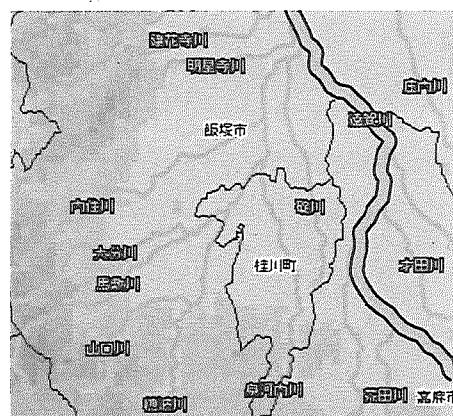
南アフリカを誘致活動した要因として、本市車いすテニス大会に出場経験があること、国際テニス連盟のランキング選手がいること、公用語が英語であることなどが挙げられます。南アフリカオリンピック委員会も車いすテニス大会の取り組みや、ボランティアが支える「イイヅカ方式」を高く評価し決定しました。今後は飯塚市全体でおもてなしの心でサポート体制を整えて選手を迎えるようにしなければなりません。



平成30年度 飯塚市防災会議

6月8日に飯塚市防災センターに於いて平成30年度飯塚市防災会議が行われ出席しました。この防災会議は本市の水防防災の根幹を成すものです。その中で気象庁福岡管区気象台の気象防災次長の宮田様から防災気象情報の説明がありました。昨今の雨の降り方が「局地化」「集中化」「激甚化」している事から「新たなステージに対応した防災・減災のあり方」の必要性を述べられました。新たに気象庁のホームページで土砂防災・大雨警報・洪水警報の危険度を予測して公開されているとの事でした。その後、平成30年度飯塚市水防防災計画書、飯塚市地域防災計画書の一部改正を審議し全会一致で承認をしました。

気象庁HP→大雨・洪水警報の危険度分布でアクセスできます。



【大雨・洪水警報の危険度分布】閲覧手順 [気象庁\(ホーム\) CLICK](#) → [大雨・洪水警報の危険度分布 CLICK](#)

飯塚市・嘉麻市・桂川町議会議長・副議長会

5月8日に嘉麻市役所において行われました、飯塚市・嘉麻市・桂川町議会議長・副議長会に出席しました。内容は現在、財政負担の軽減や環境負荷の低減を図ることを目的に進められている、ごみ処理、し尿処理施設及び火葬場の広域化について協議しました。今まで合併前の流れから飯塚市・桂川町衛生施設組合（構成団体：飯塚市、桂川町）ふくおか県央環境施設組合（構成団体：嘉麻市、飯塚市及び小竹町）でそれぞれの施設を運営をしてきました。今後はそれぞれの一部事務組合を統合して施設を一元管理して行きます。

福岡県人会

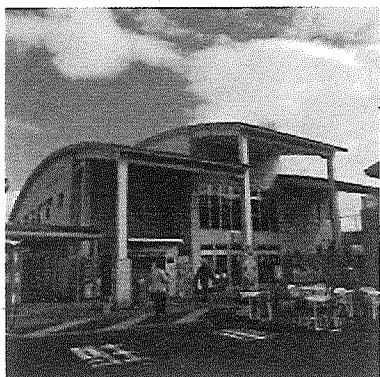
7月29日 ガーデンシティ品川に於いて福岡県人会が開催され出席しました。会場には関東近辺に居住されている福岡県出身の方々500名以上が出席されていました。オープニングで直方市出身の元大関 魁皇関(現浅香山親方)のトークショーが行われ現役時代から現在までの故郷福岡への想いが語られました。私も来場された方々に飯塚市のアピールに務めましたし、会場では本市の瑞穂菊酒造で造られたボンデクリックの試飲も行われて好評を得ていました。こういう取り組みがふるさと納税にもつながっていると思いましたし、故郷福岡を離れている方々の福岡県愛を痛感しました。



次世代エネルギー・PFI事業

7月17日に鹿児島県薩摩川内市に於いて次世代エネルギー・ビジョンの取り組みについて視察を行いました。薩摩川内市には火力発電所や原子力発電所等があることから、次世代エネルギー・ビジョンを新たに策定してエネルギーのまちづくりをさらに加速化されました。市民が喜ぶエネルギー面での処方箋をコンセプトに次世代エネルギー・ビジョンを策定され、それに基づいて行動計画を立てられていました。また既存の竹の収集・処理の仕組みを他にはない強みと捉えた上で、効率的かつ徹底的な竹の利活用による産業創出、エネルギー利用等の流れ新しい社会システムの構築によって持続可能な地域のモデルの確立に努めてきました。地域間競争に勝ち残り、人口減少に歯止めをかけるには必要な取り組みだと関心しました。

翌18日には指宿市に於いてPFI(公設、公営)事業で運営されている「道の駅いぶすき」について視察研修をしました。PFI事業のメリットとして一度に多額の財政負担が発生しない、事業費の総額の36.7%約1億8000万円の削減が期待できること、多くの民間の創意工夫やノウハウを取り組めたことを上げられていました。特に特産品の販売やレストランの運営というような業務は、行政より民間が得意とする分野で民間の経験や経営ノウハウを活かすことにより、サービスの向上が集客力の増加に繋がり、生産者の生産意欲の向上が期待され、地域活性化への波及効果も期待されているとのことで本市の筑豊ハイツのDBO方式にも役立てることが出来ると実感しました。



お困りごとや相談がありましたら
何なりと事務所へ
ご連絡ください

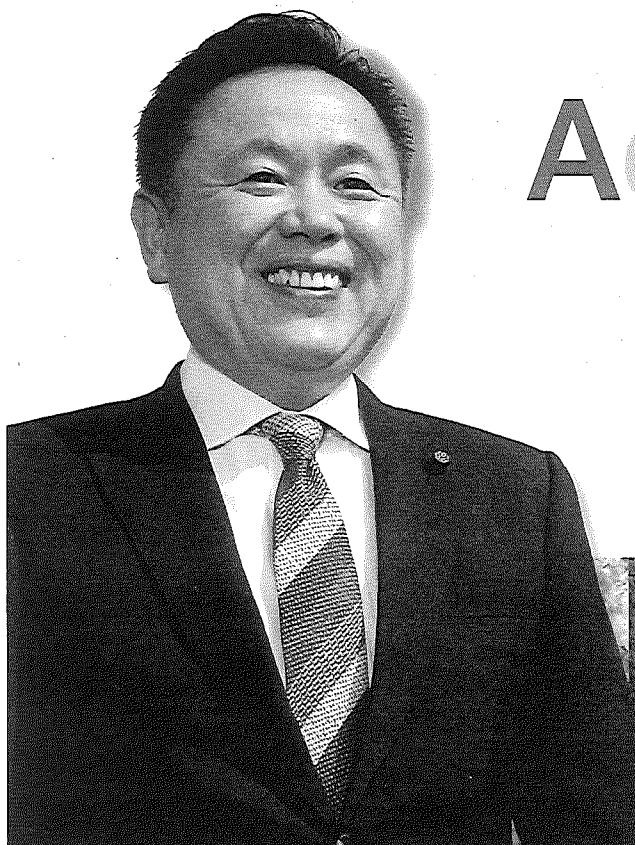
連絡先:佐藤清和事務所

〒820-0081 飯塚市枝国386-2

TEL:0948-29-3611

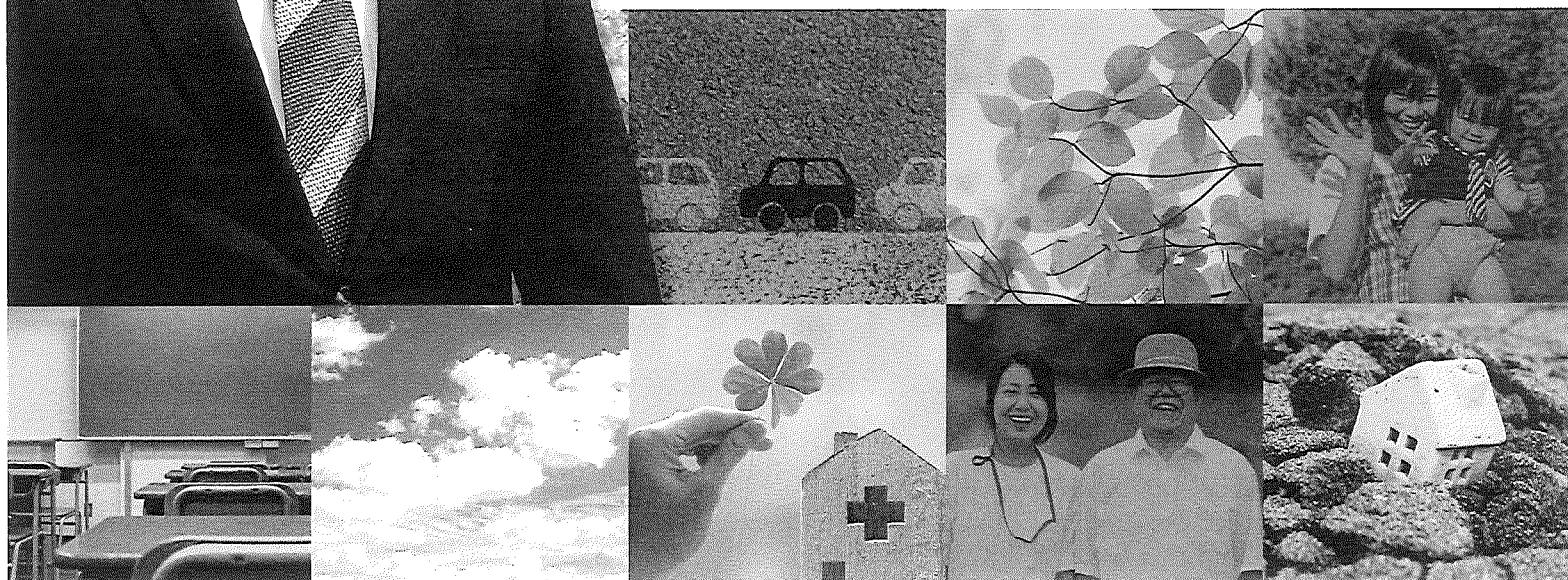
FAX:0948-29-3611

Activity Report



平成30年度総括として私自身のこれまでの取り組みをご紹介させていただきます。

飯塚市議会議員 佐藤 清和



政治
信条

「初心忘れるべからず」・「清潔・公平・公正」

これまでの主な実績

災害対策

明星寺川の浸水対策

まちづくり

旧若菜小学校の跡地利用

教育施策

小中学校の学力向上

防犯メールの導入

支援施策

学校給食の全小中学校自校方式導入

給付型奨学金制度の条例を制定

保育士修学資金貸付条例を制定

保育士生活資金貸付条例を制定

子ども発達障害者支援センターの招致

Profile プロフィール

■平成 7年／穂波町議会議員初当選

27歳

■平成15年／穂波町議会議員3期目当選

■平成19年／飯塚市議会議員当選

厚生文教委員長

■平成23年／飯塚市議会議員当選

■平成25年／飯塚市議会 総務委員長

■平成29年／飯塚市議会 副議長

みなさまの声を行政に訴え、一つひとつ解決しました

活動報告

1 共働のまちづくり いいづか

活動報告

- 200号バイパス入口交差点および弁分交差点の改良工事を実現。
- 県道瀬戸飯塚線の交通規制を実現。
- 飯塚市議会のインターネット中継を実現。
- 明星寺川の浸水対策を実現。
- 飯塚市の公用車の利活用として市民や観光者が利用する「カーシェアリング」を飯塚市へ提案。
- 飯塚市の「元気」に繋がるよう、まちづくり協議会の活用を飯塚市へ提案。
- 男女共同参画社会を早期実現するために、数回にわたり質問をして具体的な政策を提案。
- 人権が大切にされ、差別のない社会を実現するために努力。



2 未来を支える「子ども」こそ 地域の活力

活動報告

- 子ども達が犯罪に巻き込まれないように防犯メールの導入を実現。
- 小中一貫校による学力向上と教育環境(IT機器の充実)の整備を実現。
- 奨学金制度を貸与型から給付型に見直すことを飯塚市へ提案し実現。
- 学童保育所の充実を図るため、格差のある穂波地区の学童保育所の施設充実を飯塚市へ提案し実現。
- 市内全校の自校式給食を実現。
- 学校給食において、地域の食材を活用する地産地消の推進を飯塚市へ提案。
- 少子化対策として、「妊娠・出産・子育て」の流れに沿う一貫したサポート体制を飯塚市へ提案。
- いじめ、不登校をなくすために、スクールソーシャルワーカーの活用を飯塚市へ提案。
- 児童虐待を撲滅するために、福岡県・飯塚市・指定病院・学校との連携を飯塚市へ提案。

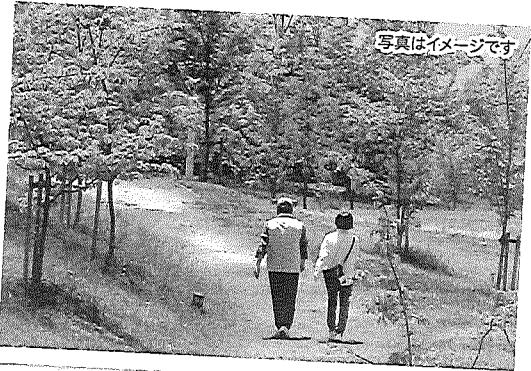


3

けん こう

健幸都市いいづか

活動報告



- 健康づくりの推進としての「生活習慣病予防・健康づくり活動の推進」
「フレイル対策など効果的な介護予防の充実」を提案し実施。
- ◎ 健幸都市として屋根付のグランドゴルフ場の整備検討を飯塚市へ提案。
- ◎ 多くの市民がウォーキングやスポーツに生涯関わっていけるよう飯塚市へ提案。
- ◎ 体力づくりや健康づくりに関する事業を推進するように提案。
- ◎ 市内全ての人が健康で過ごせるように、地域包括ケアシステムの充実を提案。
- ◎ 健全な食生活を実現するため、調理実習などの食育の推進を提案。

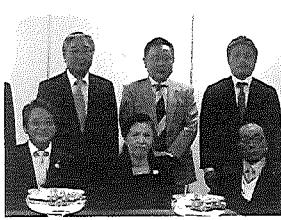
4

地元を盛り上げる

活動報告



- 「大相撲筑豊いいづか場所」の実現。
- 飯塚駅周辺の整備を訴え、近日中に蘿田地区の再整備計画が実現される見込み。
- 暴走族対策を飯塚市へ提案し、暴走族の撲滅条例が制定される。
- ◎ ふるさと応援寄附金事業として、地元特産の筑穂牛やシュガーロードのお菓子文化を活用することを飯塚市へ提案。
- ◎ 訪日外国人旅行者の誘致「インバウンド」について、現存施設の活用以外に、飯塚市のお菓子文化を目玉にして商店街や道の駅の整備を飯塚市へ提案。
- ◎ 八木山バイパスの渋滞緩和、物流の好循環、周辺住民の利便性向上のために、穂波西インターと筑穂インターを含めた全線片側2車線化を提案し、国の調査費が計上される。
- ◎ 市有地財産の有効利活用として「観音山の有効利用計画」を飯塚市へ提案。



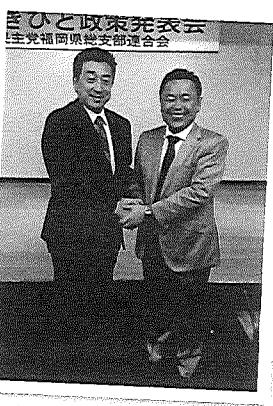
飯塚国際車いすテニス大会



2020 東京パラリンピック事前
キャンプ地基本合意書調印式



いいづか街道まつり

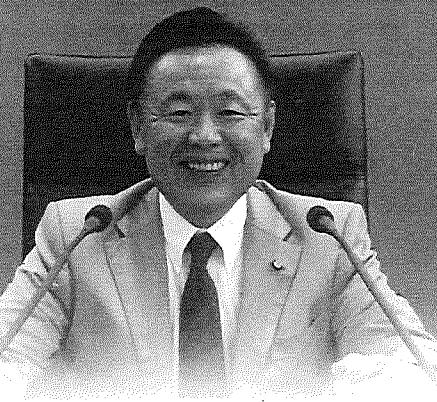


佐藤清和の想い

私、佐藤清和は皆様の暖かいご支援のおかげをもちまして、穂波町議会議員を3期、飯塚市議会議員を3期務めさせて頂きました。その間、教育環境、福祉施策の充実、防災体制の整備などに取り組ませて頂きました。

また今期は副議長の役職に就任し、今まで支えて頂いた皆様、そして私が苦しい時も支えて頂いた皆様に報いるために、常に真摯に、副議長職または議員活動をして参りました。

今後も皆様の笑顔の見えるまちづくりのために10年後、そのもっと先を見据え初心を忘れず取り組んでいく決意です。



これから取り組み

災害対策

穂波町議員時代に7.19災害を始め明星寺川の水害を経験し、明星寺川の浸水対策には集中して取り組んで参りました。その結果、徳前ポンプ場の新設、県道地下に6m×4mのカルバートボックスの埋設、潤野地域に調整池の整備などが実現し、枝国地域は以前より水害に強い地域になりました。この経験を活かし今後は飯塚市全体の災害対策に取り組んでいきます。

特に庄司川や庄内川の河川の改修や、調整池の整備、排水機能の強化など、災害に弱い地域に集中して対策をしていきます。

八木山バイパス渋滞緩和

八木山バイパスは2014年10月に無料化され、交通事故や渋滞が慢性化するなど、私たちには使いづらい道路になっています。

200号201号バイパス促進期成会という組織があり、私も副議長という役職から年に数回、国土交通省、福岡県選出の国会議員の方々に八木山バイパスの渋滞緩和に集中して要請行動をして参りました。

その結果、国土交通省より2018年3月に4車線化の調査費が異例の早さで予算化されました。

引き続き八木山バイパスの渋滞緩和に全力で取り組んでいきます。

教育・福祉環境

教育環境の充実については穂波町議員時代から子育て世代として取り組んできました。また、福祉施策の充実に対しては、私が小学校6年生のときに父が脳溢血により右半身麻痺の障害をおったことで実際に介護をしていたので、その経験を活かして取り組んできました。

特に教育予算は合併当初は市の全体の4%であったものが今では全体の10%弱にまで伸びています。

これからも子どもを持つ親として、また親を持つ子どもとして、教育環境、福祉施策の充実にも全力で取り組んでいきます。

今期の主な取り組み

奨学金制度の改正

2016年10月に中央大学の大内裕和教授による奨学金制度の問題点という講演を聞く機会がありました。その内容は今の若者が大学を卒業して奨学金の返済に苦慮しているというものでした。奨学金制度を創設した時には、将来は貸与型の奨学金制度から給付型にするということで始められたもので、数十年経過した今でも殆どが貸与型のままで、その間、物価も上がり学費も高い状態です。その結果、今の若者は大学を卒業した時点で奨学金という数百万元の借金を背負つて厳しい現実と戦っています。

その講演を聞いて共感し、直近の12月議会で一般質問をして飯塚市議会で取り上げた結果、2018年4月に飯塚市奨学金条例が改正され卒業後、飯塚市に住めば返済を免除するという制度になり、定住促進につながる条例になりました。この制度は全国初の取り組みで、今後は他市町村の参考になるものと思います。

待機児童対策

2015年に厚生委員会に所属した当時から待機児童対策に取り組んできました。その間「保育園落ちた。日本死ね。」など待機児童問題がクローズアップされました。

そういう問題を解決するため集中して取り組んだ結果、飯塚市では保育士修学資金貸付条例と保育士生活資金貸付条例の2本が制定されました。